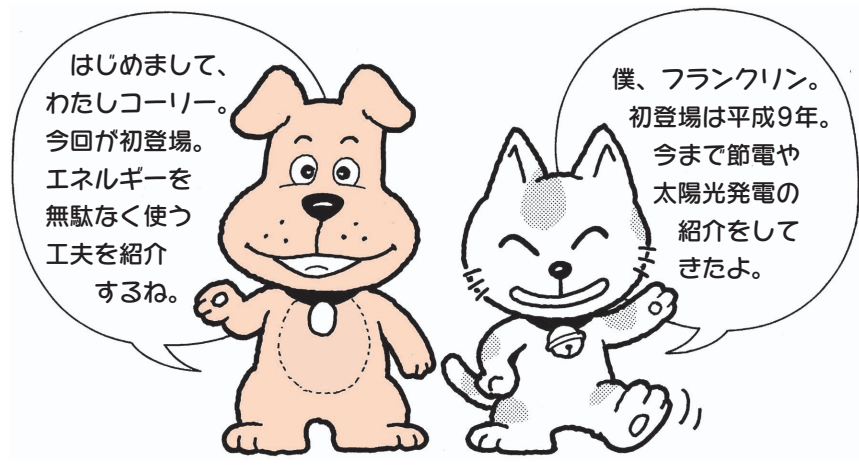


# かいてき じいばあの夏

## 先人の知恵を生かそう

これからやってくる暑い夏。先人の知恵を生かして、手軽に涼しさを手に入れたり、現代の技術を生かして効率よく室内を冷やしたりして、快適に夏を乗り切るには……。ちよつとお得な情報も交えて、フランクリンとコーリーが紹介します。

問い合わせ：環境政策課 0224-58666



はじめまして、わたしコーリー。今回が初登場。エネルギーを無駄なく使う工夫を紹介するね。

僕、フランクリン。初登場は平成9年。今まで節電や太陽光発電の紹介してきたよ。

### 少しずつ暑くなる！

「最近、子供のころと比べて暑くなった」。そう感じている方も多いのでは？ 下の表は、平成17年から同21年までの真夏日・猛暑日・熱帯夜と冬日の日数を、およそ三十年前の数字と比較したものです。冷夏などの影響を抑えるため、五年間の平均値で比較すると、暑い日が増え、寒い日が減っているのが一目りよう然。特に猛暑日は二倍以上に増加しています。

### 都市部では、さらに……

右下の図は、各年の7月から9月までの平均気温を比較したものです。年ごとに変動はありますが、全体的な傾向として気温は上昇していることが分かります。

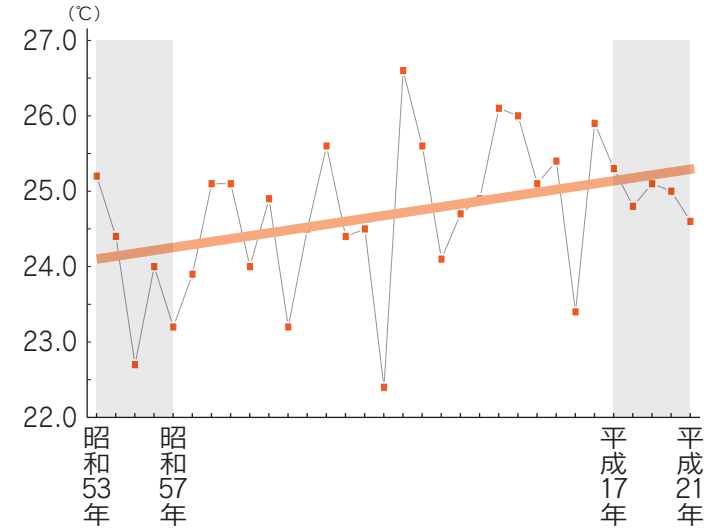
現代では、二酸化炭素などの増加で地球温暖化が進んでいます。さら

表：真夏日などの平均日数(さいたま市)

	真夏日	猛暑日	熱帯夜	冬日
昭和53年～57年	40.0日	1.8日	6.0日	96.6日
平成17年～21年	45.6日	4.6日	7.4日	47.0日
増加率	1.14	2.56	1.23	0.49

\* 真夏日=1日の最高気温が30℃以上  
 猛暑日=1日の最高気温が35℃以上  
 熱帯夜=1日の最低気温が25℃以上  
 冬日=1日の最低気温が0℃未満

図：7月～9月の平均気温(さいたま市)



\* —は、気温の変化の傾向を直線で表したものです。

### 先人が夏を快適に過ごした工夫

かつて、クーラーなどなかった時代、人々はどのようにして涼しさを手に入れていたのでしょうか。

日本家屋は、高温多湿になる夏に合わせた造りで、自然の風を取り込むことにより快適に過ごしていました。日差しを遮るために、南向きの開口部の近くに落葉樹を植えたり、よしずを玄関先や軒先に立てかけた。暑さを逃がすために、庭や道路に水をまく「打ち水」も盛んに行っていました。さらには風鈴や浴衣な

## 日差しを遮る

先人の知恵を生かして

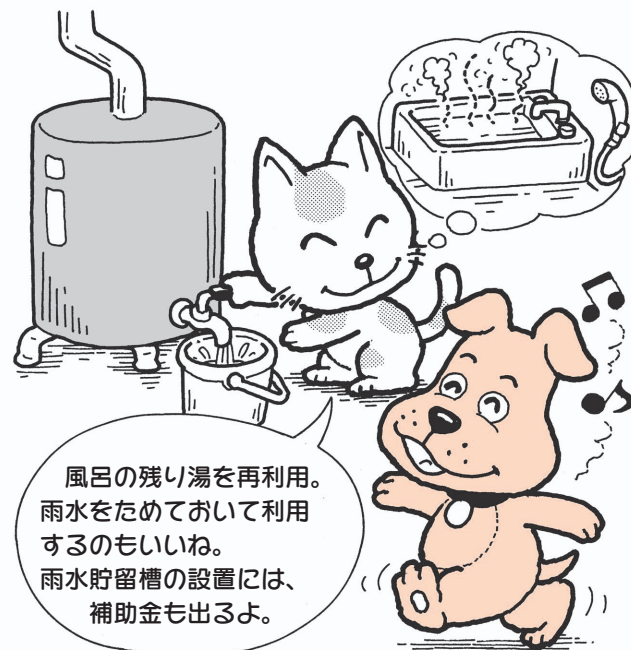
熱をためない



葉が表面から水蒸気を放出するから、室内に入る風はより涼しく感じられるんだ。さらに植物に水をまくと、打ち水と同じ効果も期待できるのさ。正に一石二鳥だね。



外にすだれなどを設置する場合は、霧吹きで表面を湿らせると涼しさが倍増。



風呂の残り湯を再利用。雨水をためておいて利用するのもいいね。雨水貯留槽の設置には、補助金も出るよ。

\*雨水貯留槽の設置補助金を受けるためには、着工前の申請が必要です。詳しくは、下水工務課 ☎223-0331 にお尋ねください。

どで演出し、五感をいっぱい使って涼を得ていました。

### 室内に熱をためない

室内の温度上昇を抑えるために、家の外側で日差しを遮りましょう。特に高い効果があるのは、つる性植物で日差しを遮る緑のカーテン。植物を植えるのが難しい場合は、南側の窓にすだれをかける、よしずを軒先に立てかける、可動式のひさしを取り付けるなど、必要に応じて調節できる物を使うと便利です。

家の外側で日差しを遮るのが難しい場合は、窓ガラスに断熱性のフィルムをはったり、昼間にカーテンを

閉めたりすると、室内の温度上昇を抑えることができます。

昨年設置した本庁舎の緑のカーテンで、8月17日から21日まで、午後1時ごろの温度を測りました。緑のカーテンの内側と外側で、地上五十センチメートルの気温差は、平均で2・3度。最高で37・0度が32・5度に、4・5度も下がっていました。また、緑のカーテンに覆われたコンクリートの壁面と覆われていない壁面で、地上一メートルの温度差は、平均で5・8度。最高で40・0度から31・0度に、なんと9度も下がっていました。

### 効果的な打ち水のしかた

- ①風呂の残り湯などを再利用し、朝夕の涼しい時間に。
  - ②地面だけでなく、壁やエアコンの室外機に打ち水するのも効果的。
  - ③日陰や風通しの良い場所で行うとさらに効果がアップ。
  - ④土に打ち水すると、一度水を吸収してから少しずつ蒸発して周囲の温度を下げるので、アスファルトよりも効果は長続き。
- ぬれた路面は滑りやすくなりま  
す。打ち水する際には、通行する人  
や車などの迷惑にならないよう、場  
所や量に気を付けて。

## 熱を遮る省エネ住宅

現代版蔵造り

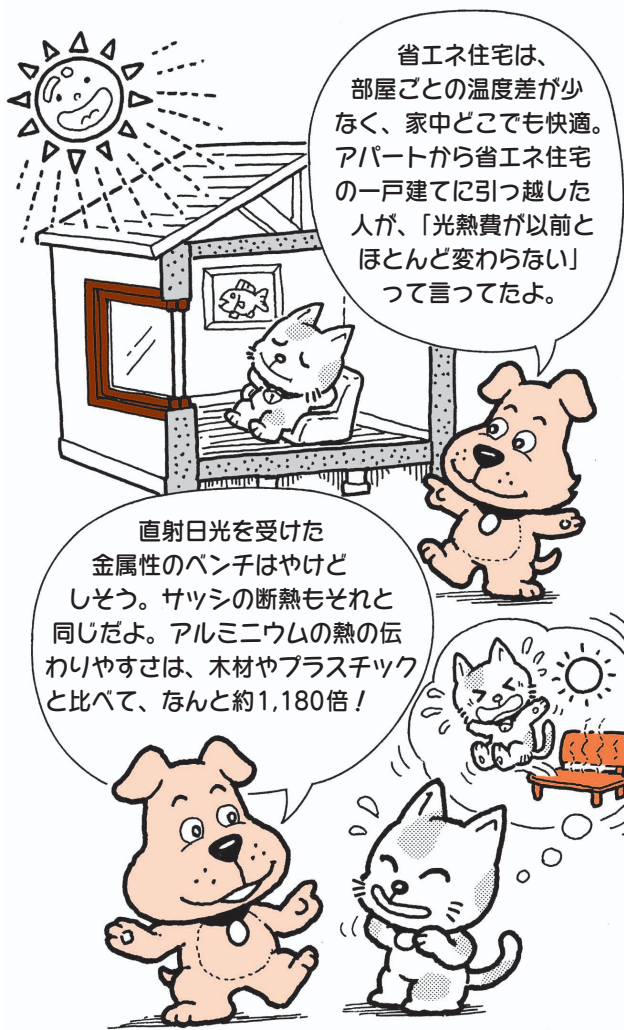
今も川越に残る蔵造りは、火災から家財などを守るために造られました。防火性に優れた厚さ約三十センチメートルの土壁は、断熱性も高く、外気温の影響を受けにくくなっています。

蔵造りの構造をまねることは難しいですが、現在の技術で考え方を生かすことはできます。断熱性・気密性に優れている省エネ住宅は、外気温の影響を受けにくく、クーラーで冷やした空気を逃がしにくい、正に現代版の蔵造りです。断熱をすると、室温だけでなく、天井・壁・床などの表面温度も保つことができます。体感温度は、これ

らの表面温度にも影響を受けます。そのため、より涼しく感じられるのです。**窓の断熱も要チェック!**

窓の熱の通りやすさは、壁の約十倍。だから窓の断熱はとても重要です。蔵造りの重厚な観音扉に代わるのは、窓ガラスを断熱性の高い物に取り替えた

り、内側にサッシを追加して二重窓にしたりすること。また、同時にサッシを木製やプラスチック製の物に替えると、より断熱性が高まります。家の断熱には、お金と期間が必要。簡単にはできませんが、新築・改築の機会に検討してみたいかがですか？



## 補助金を使って賢く省エネ



### ①住宅エコポイント

窓や外壁、屋根・天井または床の断熱改修などを行うと、このポイントがもらえます。ポイントは、省エネ・環境配慮製品、地域産品、商品券・プリペイドカード、環境寄付、追加で実施する工事に交換できます(1ポイント1円程度)。対象は、下記期間に着工した省エネ住宅の新築とリフォームで、平成22年1月28日以降に工事が完了したものです。詳しくは、住宅エコポイント事務局 [Tel0570-064-717](tel:0570-064-717)にお尋ねください。

\*新築=平成21年12月8日~同22年12月31日に着工  
リフォーム=平成22年1月1日~同年12月31日に着工

### ②高効率給湯機器補助

高効率給湯機器とは、排熱や空気中の熱などを利用して、従来の給湯器より効率よく給湯できる、省エネ性に優れた機器のことです。給湯だけでなく、発電も同時にできる物があります。

現在、利用するエネルギー源が異なる数種類の高効率給湯機器が販売されています。それぞれメリット・デメリットがあるので、買い替えの際は十分に検討してください。なお、着工前に申請すると、国と県の両方から補助金をもらえる場合があります。詳しくは、環境政策課(本庁舎5階)にお尋ねください。



省エネ住宅への改修などをすると、固定資産税の減額対象になる場合があります。詳しくは、左のページをご覧ください。

\*契約する前に、十分な比較検討をしてくださいね。